

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年10月30日（火） 午後7時～8時45分
会 場 三保野分館（みほの町会）
天 気 くもり

参加者 21人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆防災無線についてお話したい。私の家からは普段、富士見市の放送内容しか聞こえないが、12/2の防災訓練時の放送はどんな風にするのか。
- ☆12/2の防災訓練はふじみ野市だけで行うものであり、いつもは8割程度の音量で流しているところ、その日の音量は最大音量にするつもりなので、実際どんな風に聞こえるのか確認していただきたい。その時の状態について後で知らせたい。
- ◆この町内会には消火栓が12箇所ある。場所もすべて確認済みだが、実際使えるかどうかの確認は素人では難しい。消防署との連携など必要と考えるが、市としての今後の方針はいかがか。
- ☆消火栓については、旧上福岡市も旧大井町も行政としては何もしてこなかったのが現実。今後は行政管理の下、消防にも指示を出しながらきちんとチェックしていきたい。
- ◆図上訓練時にも感じたことだが、町会に入っていない人への防災訓練の周知について非常に難しさを感じている。以前とは違い、市の窓口でも転入者などに町会加入を勧めてくれているので、多少は変わってきているようだが、それでも未加入者はいるため、そのような人たちへの周知はどうしたらいいか。
- ☆おっしゃるとおり、今は役所の窓口で町会加入については『できれば入ってください』というかたちで対応している。防災訓練の周知については、市報の11月号でもかなりクローズアップしているが、実際には組織的に参加を促すのは難しいと思う。町会に加入していない方でも訓練に参加してもらえたら、その時をいい機会として、町会に勧誘してもらえないのではないか。その時は、身近な地域の助け合いを強調してもらいたい。
- ◆市としても再度、チラシ配布など、市全体に対する周知をお願いしたい。
- ☆了解した。
- ◆この地域の決めごととして、ちびっ子広場、みほの公園に集まって避難場所となっている東原小学校に向かうこととしているが、ちびっ子広場にもみほの公園にも手洗い場所やトイレが満足に設置されていないため、整備してもらいたいかがいかか。
- ☆トイレなどについては様々な要望があり、かえって造らないで欲しいという流

れもこれまでの経緯の中であった。全市的に見てその必要性を検証しながら対応させていただきたいが、大型スーパーや文京大学などの広いスペースについても協定等結んでいるので、一時避難場所として有効利用してもらいたい。

指定避難所の話が出たところで、大切なお話をさせてもらいたい。この地域の指定避難場所としては東原小学校になっていると思うが、大地震が来たとき、何が何でも東原小学校を目指して逃げるということではないということをお伝えしたい。私もタウンミーティングでこれだけは必ずお伝えしたいと思っている。避難場所とは一目散にそこを目指して逃げる場所ではない。家が崩れたときなど寝る場所がないというときに生活する場所。まずは表に出て身近な所で身の安全を確保してほしい。駐車場でも小さな公園でもいい。広い安全なスペースを見つけて一時的に自分の命を守ってもらいたい。また、勝瀬小、ふじみ野小も2市1町の協定に基づき一時避難場所としては利用できるもので、有効活用して欲しい。

- ◆12/2の防災訓練は昼間の訓練だと思うが、夜間などの訓練は考えてないか。また、この地域は高齢化地域のため、公助1割という中で、非常に昼間の人手も少なく動ける人も少ない状況が不安である。消火栓の整備をしても使える人をつくらないといけない。

☆地震は夜起こるかもしれないので、夜間訓練の必要性も感じるころではあるが、今のところ予定はしていないので、普段から町会内で夜間の想定などしながら皆さんで検証作業をしておいてもらいたい。また、高齢化率は市全体としても23%に達しており、この地域だけの課題ではないが、12/2には障がい者団体の皆さんにもお声かけしているので、なるべく参加をいただいた上で、様々な提案などいただきたいと考えている。街かどにある消火栓は60代でも70代でも取扱い可能だと思うので、そのためには、消防職員などを派遣したりしながら体験を積んでいただきたいと思う。

地震はいつ起こるかによってまったくその想定が違ってくる。平日なのか、土日なのか、昼間なのか、夜なのか、夏なのか、冬なのかでも違う。真冬の夕方石油ストーブやファンヒーターがついていて、夕飯の支度で煮炊きをしている中、各所で火災が発生する可能性が大である。その時に同時多発的に火災が発生することを考えると、消防車が追いつかない可能性もある。こんな想定に対応できる自助の部分として、皆さんのお宅にある風呂の水は抜かない、女性でもポンと投げれば消火することができるグッズを備えておくなど、皆さんそれぞれで初期消火への対応をしておいてもらうことが大切だと思う。行政としてはいくらお金をかけても完璧なことはいできない。初期消火用のグッズを共同購入するなど考えてもらえたらと思う。水道管も年間2億円ほどかけて耐震性のあるものに交換しているが、明日、震災が起こるかもしれない状況において、現在、市全体で52%の耐震率であるこの状況が、いつ100%になるかははっきりと言えないのが現実である。

- ◆3.11の時のふじみ野市の震度はいくつか。

☆震度 4 程度であった。

◆今後想定している大地震の震度はいくつか。

☆6 弱ということで、5.8 を想定している。

◆家の倒壊戸数の想定は。

☆現在、東日本大震災を受けて様々な被害想定など見直しをかけている状況であるため、今皆さんにお話できるのは平成 20 年 3 月時点での被害想定に留まるが、最大震度 6 弱を想定している中で、全壊家屋の戸数 23 戸、半壊が 453 戸、消失数が午後 6 時時点で 0 棟となっていて、恐らくこんなことはあり得ないものと考えている。死者数は 1~2 人、負傷者数 57~82 人、断水人口約 47,000 人、一日経過後の避難者数 11,363 人で、この数を基に備蓄品の確保をしている。また、帰宅困難者を 21,188 人と想定している。

昭和 56 年以前に建てられた、新耐震基準を満たしていない木造住宅については、地震の際でも比較的柔軟に対応できるのではないかとされている。かえって鉄筋コンクリート造りはいきなりグシャとってしまうのではないかと専門家の見解もある。市でも図面など持ってきてもらえれば耐震の簡易診断などできるので活用してもらいたい。阪神淡路大震災と東日本大震災とは揺れの周期が異なっていたということで、被害状況にもまったく違いが出ている。市内小中学校の耐震補強も今年度中にすべて終わるが、これについてもいきなりグシャと行かないための補強である。

◆ふじみ野市は近隣に比べていつも震度が低いような気がするが。

☆地盤についてはいい場所のようである。テレビを見た時、お気付きになる方もいらっしゃると思うが、各地の震度が出たときふじみ野市がない。近隣より震度で 1 程度低い。市役所の敷地内に震度計があり、そこから埼玉県、気象庁へ瞬時に情報が送られる仕組みになっている。

◆火災保険に入る時にも『この地域は地震被害が少ないので保険料が安い』と言われたから、確実にそういうことだと思う。ただ、水害については、1 時間あたり 50 mm までが安全な範囲なので最近の降り方を見ていると若干不安になる。

☆ゲリラ豪雨が頻発している昨今において、配水管を太くするなどの整備を順次行っているところではあるが、現在、状況により心配があるときは、職員を待機させて市民の皆さんのニーズに応えられるような体制づくりをしている。このみほの町会近辺にも管が細くなっているところがあるということで、それに対応するため、今年度中には整備を行う予定になっている。

◆新しい消防署の辺りは渋滞が激しいので、何らかの措置をしなければならないと考えるがいかがか。

☆建物前の道路は拡張し、右折帯の新設などもする予定であり、出勤に影響が出ないようにする。この他、反対側に抜ける道も模索しているところである。みほののエリアで言えば、上福岡や富士見の消防署からもカバーされる地域だと思う。

◆この前この辺りで火事が起こったとき、通報した者が消防車の到着時間を計っ

たらしいが、7分もかかったと言っていた。

☆今の場所からだとも7分はかかり過ぎる気がするが。通報を受けてからの目安はだいたい5分程度となっている。

◆前にも消防署からは、消火栓を使うような心配は要らないと言われたが、やはり自助が重要という意識はもっていなければならない。

☆救急車の話をさせてもらうが、昨年の出動件数は9,000件以上となっていて、管内6台の救急車で回している。250,000人エリアで考えた場合、もう一台増やしたい。しかし、それには人間が9人必要になる。1台分の救急車と9人分の人件費を計算すると1億円近い経費がかかる計算になる。現在、最大3時間の間、全隊が出動という状況があり改善しなければならないと考えている。

◆震度6弱の大地震が起きた場合、ふじみ野市内ではどこの地域の被害が大きいと想定しているのか。ランク付けなどあるのか。自分のうちから火は絶対出さないというのが基本だと思うが、それ以外でも心の準備が必要な部分もある。

☆ランク付けはしていないが、木造住宅の市内全域における分布図によると、市内各所で住宅密集地域が点在している。その中には、開発と道路整備とのタイミングがうまく調整できなかったのか、道路がかなり狭隘化しているところがある。消防車両が通れるかどうかにも心配。そのような地域については、何軒かおきに消火器を設置するなど町会独自の工夫を凝らしていただきたい。地域事情については、その地域の皆さんが一番詳しいのが現実なので、皆さんで不安への対応策についてさまざまな議論を重ねていただきたい。

◆防災倉庫は各拠点に設置されているが、ミニ防災倉庫のようなものを増設する考えはないのか。

☆順次、整備していきたいと思う。

◆指定避難場所の防災倉庫はいくつあるのか。

☆一つの学校を除くすべての箇所に設置してあるので、18ということになる。指定避難場所は自宅に住めなくなった時のための場所であり、一時避難所とは違う。その指定避難場所での食糧の話を見せてもらうが、一日2食を想定する中で、一日は市で、もう一日は県で、後の一日は皆さんのお宅に普段からストックされているお米や野菜などを持ち寄って、何とか3日間を凌いでいこうとする計画である。お米などを買い足すタイミングとして、無くなる前に余裕を持って買い足しておくなどの意識を持って、循環型備蓄に協力いただきたい。